



# 雪と氷の研究者に インタビュー



ながつか なおこ  
永塚 尚子さん

国立極地研究所 気水圏研究グループ

(2018年7月現在)



どうして雪、氷の研究に興味をもったのですか？  
また雪と氷の魅力を教えてください。

小さい時からペンギンが好きだったので、南極に行ってみたいなと思っていたのがきっかけです。実際にはじめて氷河に行って氷の上に立った時には、その大きさに驚き、感動しました。氷河というのは氷の河と書くように、とてもゆっくりだけれども常に流れ続けています。ビルほどの高さもある大きな氷の塊が動いているなんて信じられないですよ。実はわたしは寒いところはあまり好きではないのですが、お日様の光を浴びてキラキラ輝く大きくて美しい氷河の姿を見ると何度も行きたくなってしまいます。いったい世界で何人の人がこのような素晴らしい景色を見ることができるのかなと思うようになり、研究者になろうと決めました。



ご自身の研究内容を教えてください。

氷河というと、テレビの映像に出てくるような青や白のきれいな氷の姿を想像するかもしれませんが、実際には黒や茶色く汚れた氷河がたくさんあります。このような氷河の上には、雪や氷だけではなく、風に乗って飛ばされてきた砂粒や、寒い環境で生活することができる特別な生物（雪氷生物）などが集まって表面を黒く汚しているのです。白い色は光を反射し、黒い色は光を吸収するので、このような汚れがたくさんある氷河では氷が融けるスピードが速くなってしまいます。氷河が融けているのは地球温暖化のせいだけではないのです。わたしは、いったいこの汚れがどこからやって来るのか、それがどのように増えていくのかということ調べています。



子どもたちにむけてメッセージをお願いします。

大人になったら研究者になりたい！という人はなかなか周りにいなかったもので、人とは違う道に進むということに悩んだこともありましたが、でもそれを吹き飛ばしてしまうくらい氷河は素敵なところですよ。研究というと少し堅いイメージもありますが、わたしの場合はもっとこの目で世界中の大自然を見てみたい、いろいろなところに行ってみたいという気持ちから研究者になることを決めました。北極、南極というと、とても寒そうなイメージがあると思いますが、調査は夏に行くのでそんなに寒くありませんし、本当に素敵なお場所ですよ。ぜひみなさんにも興味を持ってもらえたら嬉しいです。